やまなしインフラ魅力発信事業における取り組み

山梨県 県土整備部 都市計画課 景観まちづくり室　副主幹　小林（こばやし）　弘（ひろむ）

1.　はじめに

近年，災害の頻発化や激甚化，施設の老朽化などが懸念される中，安全・安心で魅力ある地域づくりを推進していくには，県民や利用者にインフラの役割や整備の必要性を理解してもらうことが大切であるが，理解されているとまでは言い難い状況である。

また，県内にも登録有形文化財に指定されたインフラや高度な技術を駆使して整備されたインフラなど，将来に語り継ぐ“価値や魅力”あるインフラが多数存在しているが，そのポテンシャルを十分に活用できていない現状がある。

一方，インフラそのものが地域固有の観光資源としての側面でも注目され始めており，国土交通省ではインフラツーリズムポータルサイトを開設し，現場見学会だけではなく民間ツアー会社の企画立案したツアーが催行されるなど，インフラツアーへの取り組みが年々充実してきている。

2.　やまなしインフラ魅力発信事業の取り組み

山梨県では，インフラへの理解を深めるとともに，新たな観光資源として活用し，県内外からの誘客や地域活性化を推進するため，令和元年６月から「やまなしインフラ魅力発信事業」に着手し，戦略的かつ積極的に広報していくこととした。本稿では，その施策を紹介していく。

(1)　やまなしインフラツーリズムの推進

“価値や魅力”あるインフラを新たな観光資源として活用し，民間との連携で県内外から観光客を呼び込むため，民間ツアー会社によるインフラツーリズムの推進に取り組んでいる。

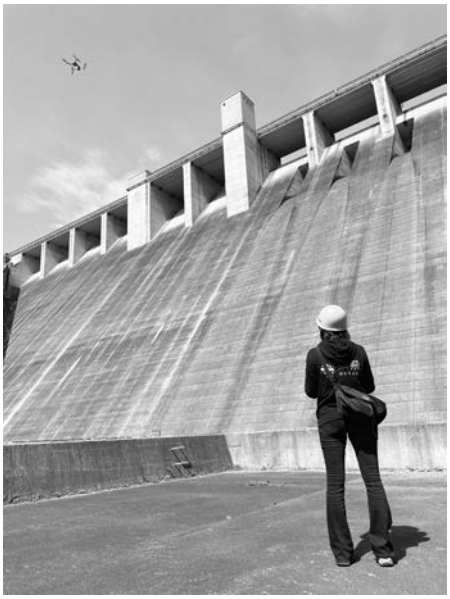
令和元年度は，ツアー専門家と職員で県内のインフラ（22 施設）を巡り，県が取り組むべき課題や，民間ツアー会社の企画立案を促すための手法等について意見交換を行った（写真－1）。

写真－1　視察の様子

その中で高い評価を得たのが，「大門ダム」と「琴川ダム」だった。

令和２年度は，これらのインフラを中心に試行ツアーを実施し，９社の民間ツアー会社を対象に，実体験をしていただいた。実際にインフラを見てもらうだけではなく，周辺の観光地やアクセスなど，ツアーに欠かせない要素も含めて評価していただける良い機会となった。

コロナ禍を経て，令和４年７月からツアー企画の受付を開始し，令和４年11月に「大門ダム『圧倒のダム見学とドローン飛行会』」が民間ツアー会社により企画，催行された。ツアーでは，ダムの管理用通路や堤体下流側などでドローンの撮影を行い，ダム堤体内を見学した（**写真－２**）。



写真－２　ドローン撮影の様子（上），見学の様子（下）

普段入れない場所でのドローン撮影やダム内部の見学には特別感があり，参加者にとても好評だったことから，その後「塩川ダム」でも同様のツアーが実施された。リピーターの方からは大門ダムとの違いなどの質問があり，インフラ自体にも興味を持っていただけた。

⑵　ポータルサイト「富士の国やまなしインフラガイド」

県内にあるインフラ関連の様々な情報を集めたポータルサイト「富士の国やまなしインフラガイド」を令和２年２月３日に開設した。

当サイトは，私たちの身近にあるインフラが持つ隠れた“価値や魅力”を多くの方に知ってもらい，興味や理解を深めていただくことを目的とし，それらを発信することで，誰もが気軽に，そして興味を持って情報収集できる「ポータルサイト」を目指している。

サイトの構成は，県内にあるインフラの情報や紹介動画，各種啓発イベント情報等とし，令和６年５月時点で67施設，インフラ紹介動画は９本制作し掲載している。

インフラの特徴を，より分かりやすく伝えるため，武田信玄の「風林火山」になぞらえた分類分けをし，トップページから分類ごとに探すことができるようにした（**図－１**）。インフラの一覧で

図－１　ポータルサイトトップページ

は，見出しの一文でインフラの特徴を紹介し，個別の紹介ページでは，インフラの基本情報，イチ押しポイント，写真や動画，周辺情報を見ることができる。

⑶　リーフレット：富士の国やまなしインフラガイド・やまなしインフラカードの発行

様々な手段を活用した情報発信の一環として，マップを手に県内を周遊してもらうことを目的とした「富士の国やまなしインフラガイド」と，インフラを訪問しながら集める楽しさも加わる「やまなしインフラカード」を発行した。

① 富士の国やまなしインフラガイド

令和３年度に「富士の国やまなしインフラガイド」として，登録有形文化財など歴史的価値のある土木遺産や特色のある土木インフラ 15 施設をまとめた。

令和５年度には，もっと多くのインフラが載った冊子が欲しいと要望があったことから，掲載数を 48 施設に増やし，１冊で見応えのあるガイドに仕上げた。

② やまなしインフラカード

県内 27 施設のインフラについて「やまなしインフラカード」を作成した。表面には写真を大きく表示し，裏面には諸元や“風林火山”のコンセプト，サイトの二次元コードを掲載した（図－**2**）。また，300 枚限定のシリアルナンバーを入れることで，特別感を創出している。

入手方法は，「インフラの実物を見ていただくことで魅力が伝わる」と考え，インフラのある場所に訪れて写真を撮影し，各カードの配布場所にて写真を提示することで取得できる方法とした。

⑷　公式インスタグラム「県土やまなし未来づくり」の開設

将来の担い手となる若者をはじめ一般県民にとって，インフラは興味関心を持ちにくいため，まずは取り組みを「知ってもらうこと」，「発見してもらうこと」を目指し，令和４年３月に若者が多く利用する SNS の中からインスタグラム（以下，「インスタ」という）を利用して情報発信を行うこととした。

インスタは，インパクトのある写真や動画を用いることで，ユーザーの視覚への訴求力が強く，一目見て興味関心を持ってもらうことが可能である。

投稿内容は，日常的な建設現場の様子や，周辺景観と調和したインフラの姿，整備の効果などである。県内の建設会社の投稿をリポストして紹介するなど，業界一丸となって取り組みを盛り上げていくことを目指している（図－**3**）。

投稿は各所属の当番制を基本とし，３日に１回

（表面）　（裏面）

図－**2**　やまなしインフラカード

図－**3**　インスタグラム「県土やまなし未来づくり」

くらいのペースで行っている。令和４年度からは，より多くの方に知ってもらうため，Web 広告やキャンペーン実施，インフルエンサーによる投稿などを行い，令和６年３月末時点で 2,300 人を超える方にフォローいただいている。

3.　事業の推進に向けて

インフラツーリズムの検討やポータルサイト・インスタでの情報発信は，本県においては初めての本格的な取り組みで，関係する所属の連携や各所属の取りまとめ役が必要であった。そこで，施策の検討チームとして「やまなしインフラ戦略広報チーム」を結成，インスタ投稿の取りまとめ役として「SNS チーム」，全体の承認組織として「やまなしインフラ魅力発信協議会」を設置した。事務局は全て景観まちづくり室が担っている。

⑴　やまなしインフラ戦略広報チーム

メンバーは，インフラの情報発信や観光資源としての活用について関心がある，もしくはこれから取り組んでみたいという職員を，年度ごとに各所属から推薦してもらい構成している。幅広い部署や年齢層によるチームであるため，様々な視点で検討することができている。

また，事業開始から５年目を過ぎ職員が本事業に関わる機会が多くなったため，“インフラの魅力を発信していく”意識が職員の間で浸透し始めている。

⑵　SNS チーム

メンバーは，各所属１人を指名し，当番時の投稿内容や原稿作成等を管理している。原稿作成等にはメンバー以外にも多くの職員が関わっており，自身が関係した現場の魅力を伝えようと写真の撮り方を工夫したり，インフラと合わせて周辺の観光地を紹介したりと，徐々に投稿内容の質が上がってきていると感じる。

⑶　やまなしインフラ魅力発信協議会

メンバーは，関係課室長で構成され，年度ごとに事務局から事業の進捗報告を受け，承認している。改めて関係する所属が連携し，本事業を全庁的な取り組みとして認識し，所属全体で推進していくことを期待している。

4.　効果の検証

これまでの取り組みの効果を検証し，次のような結果を得ている。

・インスタのフォロワー数の増加とインフラカードの配布は，ポータルサイトアクセス数の増加に影響し，アクセス数の増加は，サイトに掲載されているインフラへの来訪者の増加に影響する。
・インスタのフォロワーやポータルサイト閲覧者の増加および関係する取り組みに関わると，「インフラを訪れたい気持ち」や「家族等との仕事に関する会話」が増加する。

詳細は，総務省統計局のデータ・スタート（Data StaRt）のホームページに掲載されている「令和５年度統計データ利活用事例集」の『インフラ魅力広報プロモーションの効果に関する分析手法の立案』をご覧いただきたい。

5.　おわりに

事業スタート時は，県としても初めての取り組みであることや，効果が形として現れにくいことから，職員の意識啓発や事業の必要性の説明に苦慮した。現在は，ポータルサイトのアクセス数やインスタのフォロワー数の増加傾向，インフラガイドやインフラカードの配布数と利用者の声を元に，今後も継続的に取り組むために努力していく。